

堺・アセアンウィーク2010 姉妹都市を超えた交流

(財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課
課長 秋山 敦

国際交流のような将来への投資が、財政状況を理由に困難になっているという声をよく聞きます。そうした中、大阪府堺市は、アメリカ・バークレイ市との交流を始め、中国・連雲港市やニュージーランド・ウェリントン市といった姉妹都市等の交流に加えてアセアン諸国を対象とする「堺・アセアンウィーク」を2009年度にスタートしました。その原動力を現地でアセアン交流推進室の久保室長に聞きました。

堺・アセアンウィーク2010

堺・アセアンウィーク2010(注1)は、2010年9月27日(月)～10月10日(日)の2週間にわたって開催されました。9日、10日の週末は南海本線堺駅西口、通称ポルトス広場において、アセアン各国の伝統舞踊、音楽、衣装、食文化などが紹介され、多くの市民で賑わいました。

この事業は堺市が、中世からの交流の歴史を共有する、カンボジア、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムの5カ国の協力のもと、堺の各界の参画による実行委員会形式により実施しているもので、市民向け行事に加えて、堺市役所エントランスホールにおけるポスターパネル展、5カ国それぞれの大学生2人と指導教員1人の各国3人チーム(民間大使)が、市内小学校において特別授業などを行う民間大使プログラム事業などが行われました。

ポルトス広場でのイベントは、昨年度に続く2回目



堺・アセアンウィーク2010

ということで、運営もスムーズに流れるようになったと室長がお話しのとおり、賑やかな中にも、進行に落ち着きのようなも

のが感じられました。

会場における各国の音楽や舞踊の紹介は、いずれも見応えがあり、見学の市民は1時間、2時間と席を立ちませんでした。その盛況ぶりからはイベント型の成功例と感じたところですが、堺市が目指しているのは市民との交流であるとのことでした。それは、今年度、民間大使の活動を1週間から2週間に延長し、1ないしは2カ所でホームステイしながら、市内26校で各国の文化や歴史を紹介する交流事業を実施したことに現れています。堺・アセアンウィーク最終日に、ポルトス広場特設ステージで民間大使とともに衣装紹介やその後の記念撮影を行う市民の姿は、市民中心型の交流としても成功であることがわかりました。

(注1) http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_kokusai/asean_week01.html

堺・アセアンウィーク成功の原動力

このように新しいことを始め、成功させるためには何が必要でしょうか。まず、実施しようとする事業のバックグラウンドとなる方針があること、次にきっかけ(チャンス)を見いだすことではないかと感じました。

1. 事業のバックグラウンドとなる方針

堺市は、海外との積極的な交流、とりわけ中近世のアジア海域における交易を通じて、輝かしい歴史と文化を築き上げてきた国際都市であり、また数十年にわたる民間団体(特活法人)堺国際交流協会の活発な活動がありました。そこで、そうした歴史経過を踏まえ、1994年3月の堺市国際化基本指針を具体化する形で2008年8月に国際化推進プラン(以下「プラン」)(注2)を作成しています。このプランは4つの柱の下、9つの重点取り組みを行うこととしています。

今回のアセアン諸国との交流事業は、このプランの中の2つの重点取り組みが反映されています。

1つめは「オンリーワンの特色をいかしたグローバル・ネットワークの構築」

の柱にある「国際交易の歴史をいかした文化交流の展開」です。中近世の国際貿易などで堺とゆかりが深い外国政府・外国公館との連携による多彩な交流事業の開催・誘致という取り組み目標に基づき、この企画にカンボジア、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムの大使館・領事館などの参加・協力を得ました。なお市ではこのイベント以外にも、2010年度から市役所近くのベトナム総領事館の協力を得て、総領事館を会場にアセアンウィーク参加5カ国の料理や音楽、舞踊などの市民向け文化講座を開催しています。

2つめは、「多文化共生のまちづくりの推進」の柱にある「国際的な人材の育成と国際理解の強化」です。こうした視点から先述の民間大使プログラム事業を実施しました。本国で日本語や日本文化など日本について学んでいる大学生が、小学校の生徒を対象に特別授業を行うことで、多文化理解に大きな効果があります。特に今年度は、昨年度に比べ実施期間を倍にする一方、訪問する学校数は1.5倍ぐらいいとどめて密度の濃い事業を実施したとのことでした。

また、市では、2008年12月にアセアン交流推進室を新たに設置し、この堺・アセアンウィークは同室が中心となり、産・学・民の協力を得て実行委員会を組織して実施しました。「堺・アセアンウィーク」は、このようにしっかりとの方針、バックグラウンドのもとで事業が実施されており、このことは、地域の国際化を、今後国際交流により進めようとする自治体にとって参考になると思います。

なお、堺市では、このようにプランに沿った取り組みのため、財政状況が厳しくなっても、引き続き交流活動はより充実させるべく取り組み、将来的には参加国も5カ国からさらに増やしたいとのことでした。

(注2) http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_kokusai/ikenbosyu.html

堺市国際化推進プランの概要

【策定の目的】

「グローバル化」の時代に対応し、市民と協働して国際化を推進する重点的な取り組みと、それらを計画的に進めていくプログラムを示すことにより、堺市が国際的に魅力のある都市として発展していくことをめざす

「4つの柱」における「9つの重点的取り組み」で国際化を推進

めざす都市像 世界の人々が行き交い、にぎわいあふれる、国際性豊かな自由都市・堺

1 オンリーワンの特色をいかしたグローバル・ネットワークの構築

- (1) テーマ別の都市間交流のしくみづくり
- (2) ものづくり産業の集積をいかした経済交流の展開
- (3) 国際交易の歴史をいかした文化交流の展開

2 多文化共生のまちづくりの推進

- (1) 外国人が快適に暮らすことができるまちづくりの推進
- (2) 国際的な人材の育成と国際理解の強化

3 平和貢献と国際協力の推進

- (1) 国際平和への貢献
- (2) NPO・NGOなどと連携した国際協力の推進

4 国際都市にふさわしい都市機能の整備

- (1) 国際交流機能の整備
- (2) 国際機関・外国公館との連携強化・誘致促進

2. 機会・きっかけの重要性

次に、重要と思われるのは機会を逃さないことです。堺市は2009年度が市制120周年の節目だったことが、堺・アセアンウィークという新たな企画を通す原動力となったとのことでした。そのため、イベントの費用も比較的確保しやすかったとの話でした。それに併せて、2010年度は、(財)自治体国際化協会の補助金も活用されています(注3)。

外資系企業の進出、姉妹校など特定分野の交流など様々な機会・きっかけを探してみることも必要でしょう。

(注3) 平成22年度地域国際化施策支援特別対策事業

今後の方向性

このように、事業を実施する委員会における構成団体間の協力がすすむと、参加団体が中心になって事業を進められないかとの考えもでてきますが、その点について聞いたところ、まだ産・官・学・民、様々な団体の協働が始まったばかりであり、当面は行政が調整役をしながら、各団体の協力のもと堺・アセアンウィークを充実させていくことが、プランの推進につながるようになるのではとの考え方でした。

最後に、堺・アセアンウィークの今後の展開についてですが、プランの「ものづくり産業の集積をいかした経済交流の展開」につながる芽が出てきているとのこと。本来、国際交流・文化交流は経済的な効果を求めるものではありませんが、堺市が各国総領事館と航空会社の協力を得て招へいした、各国メディアの自国におけるテレビ放映や新聞報道などの影響で、アセアンの国々から堺市についての問い合わせがなされたり、市内の食品産業がアセアン諸国へ進出する動きがでたりしており、将来的には観光や経済への波及も期待できるとのことでした。

堺市のやり方、面白いと思いませんか？